

コイのヘルペスウイルス(KHV)病

コイのヘルペスウイルス(KHV)病については、テレビや新聞で報道され、また県のホームページや市町村の広報などに掲載され御存知でしょうが、改めてお話しします。

昨年11月2日に茨城県霞ヶ浦でKHV病による大量斃死が報道されるや、12月15日までに22都府県の養魚場や河川などで発生が確認され、本県においても肝属川などでコイが感染、死亡しました。霞ヶ浦・北浦は全国のコイ生産量の約半数(5千トン)を占める一大生産地ですが、この病気のために全量が処分され、58ある養殖業者が全て廃業する方針を決定したと1月に報道があり、一つの病気で地域の産業を消滅させるという事態になってしまいました。

KHV病は近年になって発見された感染症で、1998年にイスラエルやアメリカでコイの大量死があり、2000年になり新種のウイルス「KHV」が原因と発表されたものです。その後、ヨーロッパやインドネシア、台湾などでも発生が確認されましたが、日本ではこれまで確認されていない未侵入の病気でした。

KHV病はマゴイとニシキゴイにのみ発生し、原因となるウイルスは18~25℃で活発に増殖し、10℃以下30℃以上では増殖しないとされています。報告では発病する水温は18~26℃で、感染から発病するまでの潜伏期間は2~3週間程度とのことですが、低水温下ではこれより長くなる可能性があります。現在、県内の河川などは水温が低く、発病するコイはいないと思われませんが、感染しているかどうかは不明で、春以降の水温が上昇した時に、一気に発病し死亡することも考えられるため、予断を許さないのが現状です。

KHV病に罹ったコイは、行動が緩慢にな

り摂餌が悪くなりますが、目立った外部症状が少なく、鰓の退色やびらん、体表の部分的退色、眼球の陥没等が見られるぐらいで、これも全てに現れるものではありません。



KHV病のコイ(外部症状はほとんどない)



KHV病のコイの鰓(白く見えるのが腐れ)

KHV病が怖いのは、死亡率が非常に高く、有効な治療法がないことです。死亡率はアメリカでは発病から3週間までに90%、ドイツでは成魚100%の事例があるほどです。また、このウイルスはKHV病に感染したコイとの接触や飼育水を介して感染するとされているので、一度病気が発生すると水系全体にまで感染を広めてしまいます。対策としては、今のところ感染が疑われるコイを含めて処分するしか方法がありません。

このように、KHV病はコイに対して非常に恐ろしい病気のため、関係者はまん延防止に努めていますので、コイの斃死などが見られたら最寄りの市町村に連絡してください。

なお、コイ以外の魚や人などには感染せず、また感染した鯉を食べても、人体には全くの無害なのでご心配なく!!

(指宿内水面分場 吉満)